インフルエンザの流行

毎年恒例インフルエンザの話、今回は流行について。
インフルエンザの流行が無かった年はありません。地域差もありますが、概ね長崎は 11 月頃からパラパラと出始めて、冬休み前に一寸増え、一旦冬休みで終息し、1 月中旬から再流行、ピークは 1 月末から 2 月中旬、終息は春休みです。
インフルエンザにはＡ型、Ｂ型があり、更にそれぞれ種類があり、この頃はＡ2 種類、Ｂ2 種類、1 シーズンで 4 種類のウイルスがみられる事が多いようです。
従って、1 月にＡに罹って、3 月にまたＡに罹るのは「あり」です。
インフルエンザ、冬季流行性感冒ともいいます。冬に流行るカゼです。カゼなのになぜニュースで取り扱うほど注目されるのか？答えはそのうつりやすさにあります。 1 人罹患すると 2~3 日の潜伏期を経て 3 人程度にうつします。その 3 人が 2~3 日で 3 人へとなりますので、クラスで月曜日に 1 人発症すると水曜日は 3 人（合計 4 人)、土曜日には 9 人(合計 13 人)、計算上翌週にはクラス全員がウイルスを吸い込む、つまりクラスで 4 人発症したら流行が始まる可能性が高く、2 週間弱でピークになるということになります。
この計算はあくまでも全員がインフルエンザに対して感受性がある（吸い込んだら発症する）場合です。30 人のクラスで、20 人免疫があれば（吸い込んでも発症しない）さほどの流行はありませんので、免疫のない 10 人も守られます。
赤ちゃんや高齢者、妊婦さんに癌治療中の方など、免疫のつきづらい方はおられ、このような人は通常「カゼ」で治まるインフルエンザも重症化することがあります。出来るだけ多くの人がワクチンを接種し、社会全体の免疫力を上げ、免疫のつきづらい方を守るようにしましょう